

# 平塚市市民活動推進委員会

## 平成30年度 第2回 議事録

日 時 平成30年7月11日（水）午後2時から午後4時00分まで  
場 所 ひらつか市民活動センター  
出席者 辻委員長、竹本委員、猪俣委員、田平委員、山田委員、中野委員、吉川委員、芦  
沢委員、露木委員、  
事務局  
傍聴者 1名

### 1 提案型協働事業について

平成31年度実施の市民提案型協働事業と行政提案型協働事業の提案について、また市民提案型協働事業の一次審査と中間確認を説明した。

#### 〔委員からの意見・質問等〕

[NPO 法人 MAMA-PLUG について]

〈委員〉NPO 法人 MAMA-PLUG の協働事業について災害対策課から先日連絡があり、ひらつか防災まちづくりの会・女性防災クラブ平塚パワーズ・NPO 法人 MAMA-PLUG・災害対策課で話したいとのことだった。6月に行った一次審査でも協働事業の内容に色々意見は出た。例えば、団体が提唱する、ママ世代でもある若い人向けに絞ってセミナーを行うのであれば分かるが、シニア向けセミナーを何回か開催するだけでマニュアル化することは大変ではないかと意見を述べた。団体の得意分野を集中して実施するほうが効果は上がる。そうすると災害対策課でなく人権・男女共同参画課や福祉部と協働した方が、本来の団体の力が発揮できるかもしれない。

〈委員長〉マッチアップする担当課を増やしたほうが良いと。

〈委員〉団体の意見を聞くと、目的がマニュアル作成になっているという気がしてしまう。要配慮者を対象とするなら、高齢者を対象にして、地域に入って取組むことが大事だが、その姿勢があまり感じられない。ひらつか防災まちづくりの会で平成21年から24年にかけて平塚市と協働したが、地域に入ることが、どれほど大変か体感した。本やマニュアル作成のために協働することは本来の目的と違うのではないか、という感想を持った。

〈委員〉一次審査の評価は、条件付きで進めてもらう結果になった。平塚らしさが出ていないことが理由に挙げられた。もちろんメンバーに市民の方が、いないことが悪いわけではないが、一次審査での質疑応答でも、湘南の話は出たが平塚をあまり知らない様子だった。それで果たして協働できるか疑問だった。

- 〈委員〉女性防災クラブ平塚パワーズに、女性向けのリーダー養成セミナーに出席してもらって、ゆくゆくはリーダーになってもらいたいと言っていた。だが女性防災クラブ平塚パワーズは長年の歴史があり、既に第一線で活躍されているという質問をしても、「専門的な方も初心に戻り自分たちのノウハウを知っていただきたい」という答えが返ってきた。本当に平塚を理解しているのかと感じた。
- 〈委員〉こういった課題が改善されないと協働は難しい。
- 〈委員長〉一次審査で挙げた改善策は、提案が広範囲なのでもっと絞る等か。
- 〈委員〉それと、あとは平塚色をもっと出すこと等が挙げた。
- 〈委員〉東日本大震災で被災した数百人のママたちを対象に調査をして、ママ向けの本を作成した経験があるし、他の行政とも協働している実績はある。ただ、本当に地域に入って地道な活動をしているかというところと全部がそうではないと感じる。事務所がある川崎市等で地道な活動を、どのくらいしているかが見えてこない。
- 〈委員〉協働しても団体のためにしかならないのであれば意味がない。
- 〈委員〉提案は一つのアイデアとして良いと思うが、そもそも協働する行政側は「担当課」という表現で良いのか。前出の意見を鑑みると災害対策課以外の課も該当するのではないかと。評価の段階で△が付いたことは、何らかの弱い部分があることになる。良い提案と思うので、課題はうまくクリアしてもらいたい。
- 〈事務局〉通知の後に何回か電話で話した。実際に平塚の実情を分からないまま提案したのも事実と認識し、課題として受け止めている。担当課も地域や様々な団体の協力で沢山の事業を行っているが、若いお母さんの参加は防災活動には取り入れにくい課題がある。これは全国的な課題で、内閣府が力を入れてやろうとしている。その意味では、このノウハウを取り入れることは非常に大きい。現在、市の課題に沿った提案に出来るか、最終提案に向けて協議している。現段階ではダイバーシティ等のこともあるので名称を変えるという意見が出ている。
- 〈委員〉女性セミナーをやめるとあるが、それこそ実施した方が良い。
- 〈事務局〉恐らく女性全般というより小さいお子さんがいるお母さんや妊婦さんに絞り込みたいのかもしれない。
- 〈委員〉防災教育は自分が所属する団体でも茅ヶ崎で実施している。小学校では少し実施したことがあったが、学校教育、とりわけ授業に組み込んでもらうことは難しい。まずは先生にレクチャーして学んでもらってから、子ども達に教える過程を踏む必要がある。対象を小学生とするのか、幼稚園・保育園とするのかに絞らないと実施は厳しいのではないかと。
- 〈事務局〉協働事業は3年間で考えるもので、全体のバランスを見て、まずは学校を対象とし、その後、他のボリュームを考えているかもしれない。これから最終提案に向けて提案を固めていく。
- 〈委員〉これを機に平塚の防災教育の壁を突破できれば良い。

- 〈事務局〉そういうことも NPO 法人 MAMA-PLUG だけでなく、ひらつか防災まちづくりの会や女性防災クラブ平塚パワーズやナパサクラブ等、防災に取り組む団体は沢山あるので一緒に入っていけるようになると良い。
- 〈委員〉人件費が掛かるので難しいと思うが、これだけのマニュアルを作成するのに要配慮者 5 人に取材とは少ない。毎年平塚で開催するひらつな祭りが、やっと認知されてきた。この祭りはそれぞれの団体の力を集めて全体でやろう、という地域防災の意味がある。祭りに来てもらえれば助言も出来るし、5 人と言わず 50 人くらいに取材が出来る。若い世代は参加が難しいのでぜひ参加してもらえれば良い。新たな団体とも繋がれる。
- 〈委員長〉まだ繋がっていない団体とも、既に行っている活動に連携できたら良い。
- 〈委員〉マニュアル作成で終わらないで、市民の若い方が関わっていけるような協働にしてほしい。協働事業を機に、いかに平塚の若いママが活動に関われるかが大事だ。
- 〈委員〉平塚にも若いママの団体はあるので、連携してノウハウを広めてもらいたい。
- 〈委員長〉東日本大震災での繋がりを平塚にも繋げてほしい。それであれば平塚で協働する意味も増える。
- 〈委員〉人件費の妥当性は確認するのか。税金を使うのできちんとした算定の根拠が必要になる。
- 〈事務局〉10 月の審査で予算も議論・査定する。募集要項に基準は最低賃金と掲載しているが、あくまで目安となっている。ただ、特殊な事業をやる、資格を持つ等があれば、基準を超えることも考えられる。最終提案までに確認していく。
- 〈委員〉単価に見合う内容であれば良い。自主事業という感覚で考えてほしい。
- 〈委員〉印刷費がこんなに安くて出来るのか。
- 〈事務局〉印刷は最近インターネットでも安く出来る。ただ、企画提案の段階では冊子作成は入っていなかった。当初の予定であったセミナーを多く実施しても参加者がいなかったら意味がないと考えて、後から担当課と協議して冊子作成を取り入れたのではないかと。
- 〈委員〉何をセミナーで教えるのか、よく考えてほしい。
- 〈事務局〉冊子にするメリットは、妊娠した際、確実に母子手帳を渡すので、間違いなく一緒に渡せる。より多くの方に見てもらえるという考え方があると思う。
- 〈委員〉今まで様々な場所で実施したことを平塚でも実施するというだけでなく、平塚に合わせた研修成果を出してもらいたい。
- 〈委員〉マニュアルを作成して終わりではなく、出来た後に生かしたものになるかが大事ではないか。実際に活用できるものでなければ意味がない。
- 〈委員〉自分が所属する団体では、大学教授を呼んで防災講演を開催するだけでなく、平塚での先進活動事例を発表するフォーラムをやりたいと考えたことがあった。そこで担当課にそういう活動を行う自治会を教えてほしいと頼んだら、難しいと言

われた。結局、自分たちで全自治会に対してアンケートを取り、特に顕著な活動を行う自治会を抽出した、ということがあった。大変だったが、担当課が協働という形で名前を入れてくれたのでアンケートの回収率は7割を超えた。自分たちだけで実施したら、恐らく回収率は2、3割になっていたと思う。NPO 法人 MAMA-PLUG は担当課にお願いすれば情報提供してもらえたり用意してくれたりすると思っているのではないか。

〈事務局〉この短期間でいきなり成長することはなかなか難しいので、それを認識した提案になるとは思う。

#### [NPO 法人ぜんしんについて]

〈委員〉今までの実績にプラスした、新たなステップの提案なのでぜひ進めてほしい。今までの事業から踏み出せなかった部分を、この提案事業で当事者のためになることが出来る。

〈委員長〉ボランティアの対象となる当事者は、今までの事業で繋がった方か。

〈事務局〉まずは団体の活動に参加している方で、その中でも一般の方と同じ空間で作業が出来るくらい回復した人が対象となる。もちろん、その方だけで作業をいきなり始めるには難しい部分があるので、団体スタッフが付き添う。多くの人数を受け入れることは図書館側も難しいので、同じ方が何回か活動を続けることで慣れてもらう。そして、その先の就労トレーニングに進む位置付けにする。

〈委員長〉前回の提案でもある相談業務も続けつつ、今回の提案を実施するのか。

〈事務局〉現在行っている居場所づくりの協働事業は3年間で終わるが、今後も委託等で続ける。今回の提案はその上に乗っかる形で行う。

〈委員長〉イメージとして2階が乗っかることで、1階部分にも行こうと思う人が増えることになる。

〈事務局〉ゴールに向けた道筋が見えてくるとスタートラインに立とうと思える。失敗することは挫折感を味わうことになるので、図書館側もそれは望ましくないと考えている。初年度はあまり焦らず、ボランティアの方が安心して作業ができる体制作りを慎重に行う。

〈委員長〉これまでも図書館ボランティアの仕組みはあるのか。

〈事務局〉今回のボランティアは作業の方で、例えば、寄附があった本や古くなった本のクリーニングといったバックヤード作業を想定している。この作業の人手が図書館では不足している。一般ボランティアを検討しているようだが、あまり進んでいない状況のようだ。一方、子ども向けの紙芝居ボランティア等はある。全体のボランティア受入れが進まない状況で、先行して当事者ボランティアで受入れるので、より慎重さが問われる。

〈委員長〉かなり慎重に行ってほしい。少人数の方をまずは受入れ、それから対象を広げら

れば良い。

〈委員〉ステップを踏みながら他人と関わっていくことが大事なので、図書館ボランティアは最初のステップとして良い。次のステップでさらに人に関われると良い。ワーカーズ・コレクティブや市社協等、他の市民活動団体と連携してボランティアができれば良い。

## 2 平塚市協働のまちづくり基金について

平塚市協働のまちづくり基金の設置について目的や概要を説明した。

### 〔委員からの意見・質問等〕

〈委員〉基金の原資で市費はいくらを予定しているか。また寄附金は未知数で目標を下回ることもあるので、初年度は特に厳しいのではないか。

〈事務局〉2,000万円を担当課の要求額としている。これは市の査定、議会の承認が下りないとまだ決定しないので確定額ではない。また寄附金は厳しいことは承知している。今年度の寄附は100万円以上となっており、寄附者からは、市民活動をもっとアピールすれば寄附も増えるのではないかという御意見もいただいた。行政側の努力が足りない課題もあり、まだ市民活動等の情報を周知しきれていない部分もある。このような状況だが、寄附目標を200万と言わず、もっと大きな額を集めたいと考えている。寄附を活用した結果、まちづくりに良い変化が出たことを、より大きくアピールして、次の寄附獲得に繋げたい。ただこの基金が知られていない段階で寄附集めをすることは困難なことが見込まれ、最初にいくらか原資がないと実施できないということから、市費でいくらか支えて、残りを寄附で賄うことにしたという経緯がある。

〈委員〉基金の条例は議会に提出すると思うが、活用方法の細かい部分はこれまで分りにくかった。条例自体をまだ推進委員会で見ておらず、今回は11月開催になってしまうので議会に提案する前に見ることは可能か。議論の上では条例を見た方が良い。

〈事務局〉活用方法の具体的な部分は、これまでの議論を整理して、このような一般化した表記になった。基金の条例は、決まった定型の条例文があり具体的な情報は載らず、目的と財源、運用が載る程度となる。お配りした資料で賄えているので、前回の推進委員会から条例は省いている。具体的な内容は実施する段階で、市のホームページで随時お知らせしたい。

〈委員〉実際の条例の運用はどういう仕方になるのか。

〈事務局〉毎年度、一般会計で予算化する。基金は年度毎に予算を立て、一般会計とは別に財布を作るイメージとなる。その財布に2,000万円と寄附金を入れ、毎年、当初予算に基金から市の事業に必要な分を一般会計に持ってきて、それぞれの基金の事業に充てる。管理は予算の中で行い、事業の報告等を含む全体の進捗は推進

委員会で報告しご助言をいただく。決算についても議会に対して報告を行う。補助金は審査や評価が必要になるので、補助金の審査会として市の職員が入らない外部の附属機関を設ける。

〈委員〉寄附を募る際にリーフレット等を作成すると思うが、できるだけ分かりやすく親しみやすくしてほしい。

〈委員〉基金がどう使われて平塚がどんな課題を持っているか、市民の方には分かりにくいと思う。もう少し具体的な課題を出したほうが良い。基金が身近に感じられて、応援したいと思ってもらえるようなアピールが大事になる。

〈事務局〉実績を出す中で活動を表彰する制度がある。それをパンフレットに出し、様々な活動があることを市民にアピールしたい。

〈委員長〉事業が異なるので難しいかもしれないが、ひらつか市民活動ファンドで助成された団体の実績をパンフレットに入れることはできないか。

〈事務局〉検討したい。

〈委員〉基金は連携をアピールするのか。それとも単独の組織でも可能なのか。連携していないといけないのか。

〈事務局〉両方可能としている。連携だけに限定すると、とても少なくなる。個々の活動がないと連携も生まれず、担い手も増えないので個々の活動も大事になる。単独で解決できないことは連携して解決することもあるので、連携も応援したい。

〈委員〉平塚は本当に色んなことを一生懸命やっているが、例えば平塚市がまちづくりをしている一方、また別にJC等でもまちづくりの活動をしていて、動きがバラバラだ。そのため大きな成果に繋がらないのではないか。みんなが繋がれば大きな力になる。様々な市民活動や中間支援があるが、この基金で連携をうまく活用できたら良い。

〈事務局〉情報共有が出来ていないことも課題となる。例えば事業者・NPO・自治会等、みんなが一緒に動けることが一番良いが、現状として、それぞれお互い何をやっているのか分かっていない。我々の職場もNPOに特化しているが、それ以外のセクターには弱い。それであれば、この基金を作って集まる仕組みを作らないと難しい。基金を通じて広く募集し、様々な組織が協力して事業を行う。そうすると事例が増えて、より発展した事業ができるようになる。

〈委員〉新センターが見附台へ移ることをきっかけに、街をより魅力的にするにはどうすれば良いか考えても良いかもしれない。活動を徐々に大きくして、たくさん連携しないと、一生懸命活動しているのに街全体はあまり特徴がなく魅力的にならない。折角、基金が出来たので大きなビジョンを立ててほしい。

〈事務局〉まずは繋げることから始めたい。バラバラになったパズルのピースがたくさんあり、今は何のパズルか分からないと思うので、そのピースを一か所に集める。そして基金でどんどん繋げる。交流の機会や一歩進んだコーディネート事業等も積

極的に行いたい。

〈委員〉新しいコーディネート事業はこれから大事になる。実際センターは重要な役割を担っている。ネットワークを作ることも大切になる。

〈委員〉やってみないと活性化しないのでまずは進めてほしい。そうすると見えてくるものもある。

### 3 市民活動センター協働運営事業について

市民活動センター協働運営事業進捗状況を説明した。

#### 〔委員からの意見・質問等〕

〈委員長〉協働運営は順調に進んでいるか。

〈事務局〉予定どおり順調に進んでいる。団体のスタッフを今年から増やしているので団体のノウハウや専門性をより生かせる状況になっている。

### 4 市民活動センターの移転について

市民活動センター移転合築進捗状況を説明した。

#### 〔委員からの意見・質問等〕

〈委員〉公民館も料金徴収をしているところもある。

〈事務局〉会費は取っていることもあるようだが、一般の方を呼ぶときには取らないとのこと。公民館事業では取ることもあるかもしれないが、原則は料金を取らないルールになっている。

〈委員長〉双方のルールの違いはどう周知するのか。予約する都度、確認するのか。

〈事務局〉現段階ではそこまで検討していないが、申請のときに都度お知らせする。

〈委員〉調理室は市民活動センターに無いが登録団体は使えるのか。

〈事務局〉空いていれば使うことは可能となる。調理室はホール等に比べると特に夜間は利用率が下がっているので相互利用できれば良い。調理室は公民館毎に大きさも違い、会議として使うこともある。

〈委員〉そういうところから協働が生まれれば良い。

〈事務局〉そう思う。特にフリースペースは公民館に無いので利用が終わった後にセンターのフリースペースを使ってもらえれば、交流が生まれる可能性がある。これは全市に広がることを期待している。

〈委員〉公民館の登録要件との違いはあるか。

〈事務局〉ある。センターは公益的な活動をしていてメンバーは5人以上で内3人は市民等の要件がある。公民館は地区要件があって大体、小学校区のエリアになっていて、メンバーの半分がそのエリアの人等の要件がある。両方に登録している団体もあるが、市民活動団体のように広域で活動するような団体だと登録できない公民館

が多い。

〈委員長〉登録要件が違うことで支障は出るか。

〈事務局〉要件さえ合えば登録できる。センターでは地区単位で活動していても要件が合えば登録できる。両方登録できれば良いが、片方登録して空いていれば使用は可能である。現在の公民館よりも新しい公民館は部屋が大きくなるので、部屋が埋まってセンターを使いたいということは可能性として低い。ただし、込み合う土日は登録団体でバッティングすることはあるかもしれないが、基本は大丈夫ではないかと考える。現在の稼働率は、センターが8割程度で公民館は7割程度になっている。

〈委員長〉センターの一般登録団体の場合、公民館予約はどうなるか。

〈事務局〉一般団体は検討事項になる。

## 5 その他

推進委員の任期について説明した。

### 【委員からの意見・質問等】

なし